

青森県立高等学校入学者選抜前期選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成25年度青森県立高等学校入学者選抜前期選抜学力検査を3月5日(火)に実施し、10,948人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には15点（昨年度は9点）、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表（前期）に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語は6.6点、数学は2.9点、理科は1.4点、英語は3.4点下回り、社会は0.7点上回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成25年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表（前期）

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	9	0.1	11	0.1	9	0.1	11	0.1
90～99	147	1.3	597	5.5	150	1.4	321	2.9	733	6.7
80～89	939	8.6	1,688	15.4	603	5.5	1,067	9.7	1,201	11.0
70～79	1,923	17.6	2,318	21.2	1,511	13.8	1,463	13.4	1,316	12.0
60～69	2,306	21.1	2,050	18.7	1,986	18.1	1,726	15.8	1,398	12.8
50～59	2,194	20.0	1,597	14.6	2,147	19.6	1,826	16.7	1,450	13.2
40～49	1,795	16.4	1,162	10.6	1,927	17.6	1,733	15.8	1,612	14.7
30～39	1,059	9.7	768	7.0	1,353	12.4	1,482	13.5	1,484	13.6
20～29	448	4.1	464	4.2	710	6.5	917	8.4	1,162	10.6
10～19	122	1.1	237	2.2	361	3.3	362	3.3	533	4.9
0～9	15	0.1	58	0.5	189	1.7	42	0.4	48	0.4
0（再掲）	1	0.0	3	0.0	25	0.2	2	0.0	1	0.0
受検者数	10,948	100.0	10,948	100.0	10,948	100.0	10,948	100.0	10,948	100.0
平均点	57.9		62.5		53.0		54.5		54.7	
標準偏差	16.8		19.6		19.0		20.1		22.7	
最高点	98		100		100		100		100	
最低点	0		0		0		0		0	
前年度平均点	64.5		61.8		55.9		55.9		58.1	

*得点一覧表の各教科の値(%)は、全受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

国 語（前期）

①の放送による検査は、資料を見ながら職場体験の報告を聞き、その内容や表現の仕方をとらえる力、聞き取った内容についての質問を考える力をみる問題である。(1)の、報告の内容について聞き取る問題、(3)の、報告の仕方の説明として適切なものを選ぶ問題は、いずれも正答率が9割を上回った。(2)は、話し手の考えの根拠となる部分を聞き取って書く問題であり、「給食を作ることの大変さ」、「食べ残しの量の多さ」という必要な情報が不足しているために減点されているものが多かった。(4)は、聞き取った内容についての質問を考える問題であり、正答率は約7割であった。

②は、漢字の問題である。(1)の読字では、ウ「峡谷」を「きょうや」、「けいこく」、オ「手繰り」を「てさぐり」と読んだ誤答が多く、正答率はウが約4割、オが約5割であった。書字では、キ「縦隊」を「渋滞」、ク「協賛」を「共産」とするなど、同じ読み方の別の漢字を書いた誤答が多く、正答率は低かった。(2)は、同音異義語を選ぶ問題であり、イ「(担当者に)照会(する)」は「詳解」を選んだ誤答が多く、正答率は3割を下回った。漢字については、文脈に合わせて正確に判断し、適切に用いる力を養うとともに、語いを増やすことが大切である。

③は、『論語』からの出題である。(1)の、書き下し文を書く問題は、正答率が約7割であった。(2)アは、「言有る者は、必ずしも徳有らず」の現代語訳を書く問題であり、正答率は3割を下回った。誤答としては、肯定文に訳してしまったものや、「言」と「徳」の意味を正しくとらえていないと思われるものが見受けられた。(2)イは、漢文の内容を表す四字熟語を選ぶ問題であり、正答率は約4割であった。内容を理解する力に加えて、四字熟語の知識も必要となるため、正答率が低くなったものと思われる。

④は、朽木祥(くつきしょう)の『オン・ザ・ライン』からの出題である。(1)は、表現技法(「体言止め」)についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(2)は、「歯を食いしばる」という慣用表現をもとに、登場人物の様子を書く問題であるが、慣用表現の意味をとらえていないと思われる誤答が多く、正答率は約3割であった。(3)は、文章の展開に即して、登場人物の気持ちに合った朗読の仕方を選ぶ問題であり、正答率は8割を上回った。文章の展開や登場人物の心情をよくとらえているものと思われる。(4)の、表現の仕方に注意して読む力をみる問題は、正答率が約5割であった。文章中の異なる部分から同じ意味をもつ表現を見つけることが難しかったものと思われる。(5)は、描写の効果について説明する問題である。正答率は約1割と低く、文章から読み取った効果を、与えられた条件に即して表現するという形式に戸惑いがあったものと思われる。条件を満たしていないために減点されたものや、無答が多かった。

⑤は、武田双雲(たけだそううん)の『人生を変える「書」 観る愉しみ、真似る愉しみ』からの出題である。(1)は、「タイプの違う」と文節相互の関係が同じものを選ぶ問題である。正答率は約4割で、誤答としては、修飾・被修飾の関係である「赤い花」を選んだものが多かった。「タイプの違う」の「の」が主格であることに気付かなかったものと思われる。(2)アは、文章から「観る」と「見る」についての筆者の考えを読み取り、与えられた形式(空欄Ⅰ、Ⅱ)に合わせてまとめる問題である。Ⅰの正答率は約7割、Ⅱの正答率は約5割であった。誤答としては、「一文からそれぞれ抜き出して書く」という条件を満たしていないものが多かった。目的に応じて、必要な情報を取捨選択しながら読むことが大切である。(2)イは、筆者の考えが述べられている部分を抜き出す問題である。問われている内容と関係のない部分を抜き出した誤答

が多く、正答率は約4割であった。(3)の、表現の仕方についての理解をみる問題は、正答率が約7割であった。(4)は、「観る」とはどのようなことかを、筆者の考えを踏まえ、与えられた条件に即して書く問題である。文章中の語句を抜き出しただけで、条件を満たしていない誤答が多かった。文章の内容をもとに自分の考えを書く場合には、筆者の考えをとらえた上で、身近な例を挙げて具体的に書くことが大切である。

〔6〕は、読書活動を推進するための二つの標語を比較し、批評する文章を書く問題である。「標語を選ぶ観点」と「二つの標語の表現の特徴」を関連付け、与えられた条件に即して自分の考えを論理的に書く力が求められるが、条件を満たしていないことによる減点が多かった。文章に対する意見を書く場合には、自分の考えとその根拠を整理してまとめることが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の展開に即して内容を理解する力や、条件に従って適切に表現する力、文章の構成や表現の仕方に着目して内容をとりえ、自分の考えを適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 国語（前期）

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)				
1	(1)	3	話を全体と部分との関係に注意して聞き取る。	97.2	3	(1)	4	漢文のきまりに従って読む。	69.1		
	(2)	4	話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取る。	33.2		ア	4	漢文のきまりに従って内容をとりえる。	27.9		
	(3)	4	説得力のある表現の仕方に注意して聞き取る。	97.6	イ	4	書き手の論理の展開を的確にとらえ、内容を理解する。	41.3			
	(4)	4	発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる。	69.2	4	(1)	4	文学的表現の仕方（表現技法）に注意して読む。	71.7		
2	ア	1	読 字 常用漢字を読む。	軌跡		89.0	(2)	4	語句の効果的な使い方について理解して読む。	32.1	
	イ	1		鍛錬		70.4	(3)	4	文章の展開に即して内容をとりえる。	84.0	
	ウ	1		峡谷		38.8	(4)	4	表現の仕方に注意して読む。	49.1	
	エ	1		貫く		95.5	(5)	6	表現の仕方に注意して読み、自分の考えを書く。	10.1	
	オ	1		手繰る	54.6	5	(1)	4	説明文節相互の関係をとりえる。	43.1	
	カ	1	書 字 学年別漢字配当表の漢字を書く。	油断	69.5		ア	I	4	文章に表れているもの見方や考え方を理解してまとめる。	70.5
	キ	1		縦隊	15.4			II	4	文章の展開に即して内容をとりえる。	46.4
	ク	1		協賛	24.2		イ	4	文章の展開に即して内容をとりえる。	40.6	
	ケ	1		誤り	82.2	(3)	4	表現の仕方に注意して読む。	66.3		
	コ	1	輪投げ	69.3	(4)	6	文章を読んで考え、自分の意見をまとめる。	39.5			
(2)	ア	1	同音異義語 同音異義語の適切な漢字を選ぶ。	還元	81.9	6	10	を批評する文 目的に応じて文章を読み、表現の仕方について批評する文章を書く。	平均点 5.1		
	イ	1		照会	28.7						
	ウ	1		執る	78.7						
	エ	1		一糸	42.3						
	オ	1		開口	34.4						

社 会（前期）

①は、地図を活用する力や、様々な統計資料から世界の気候分布や各国の地理的特徴を多面的に思考・判断する力をみる問題である。(2)、(3)は、中心点からの距離と方位が正しい略地図と、緯線と経線が直角に交わる略地図を活用し、2点間の距離について思考・判断する問題である。正答率はいずれも約6割であり、誤答としては、(2)は、ロンドンとロサンゼルス shortest コースが直線で示されている選択肢を、(3)は、ロンドンから最も遠くに描かれている選択肢を選んだものが多かった。(4)は、2月12日10時30分にロンドンを出発した飛行機がロサンゼルスに到着する時間を時差を踏まえて求める問題である。正答率は約4割であり、飛行機がロンドンを出発したときのロサンゼルスの時間を求めたと思われる「2月12日2時30分」や、飛行機がロンドンを出発した時間に搭乗時間を加えたと思われる「2月12日21時50分」という誤答が多かった。(6)は、人口と原油に関する統計資料からブラジルとサウジアラビアを判別する問題である。原油の生産量が最も多い選択肢をサウジアラビアとした誤答が多く、正答率は3～4割であった。複数の資料から情報を的確に読み取る力や、サウジアラビアの乾燥した気候から人口が少ないことを推測するというように、知識を柔軟に活用する力が大切である。

②は、都道府県に関する基礎的・基本的な知識や、等高線から地形の断面を判別する地理的技術の定着をみる問題である。(1)イは、九州の略地図を見て、網かけされた県（宮崎県）の県名を書く問題である。正答率は約6割であり、誤答としては、宮崎県に隣接する県の県名、「鹿児島県」、「熊本県」が多かった。(1)ウは、促成栽培について書く問題である。正答率は約5割であり、誤答としては、「時期を遅らせて収穫・出荷する栽培方法」というように内容が反対のものや、「ビニールハウスを使って栽培する方法」というように施設園芸について説明したものが多かった。問われている内容を正しく理解した上で、与えられた資料と知識を活用して適切に表現する力が大切である。

③は、日本の古代・中世・近世の主な歴史的事象についての理解や、与えられた語句を用いて適切に表現する力をみる問題である。(2)アは、徳川家康が豊臣氏をほろぼした「大阪の陣」を問う問題で、正答率は2割を下回り、誤答の大半が「関ヶ原の戦い」であった。歴史的事象相互の関連について丁寧に学習することが大切である。(3)イの、「壘田永年私財法」を問う問題は正答率が約8割、(5)ア、イの、「浄土信仰」、「摂関政治」を問う問題は正答率がいずれも約9割であり、基礎的・基本的な学習内容が定着しているものと思われる。

④は、近代・現代における日本と外国とのかかわりについて、時間的な流れに即してとらえる力や、様々な歴史的事象に関する理解をみる問題である。(1)は、明治維新のころに国家財政の安定化に向けて実施した「地租改正」を問う問題である。正答率は約4割であり、江戸時代に行われた「享保の改革」、「天保の改革」という誤答が多かった。(3)は、領事裁判権の内容についての問題であり、正答率は約5割であった。「事件が起きた国の法律で裁かれる権利」という誤答が多かった。また、(6)の、日本がポツダム宣言を受諾してから独立を回復するまでのできごととして適切でないものを選ぶ問題は、正答率が4割を下回った。歴史的事象の時間的な流れを大まかにとらえると同時に、その背景にも踏み込んで学習することが大切である。

⑤は、皇居周辺の略地図をもとに、地理・歴史・公民分野の学習内容についての理解を総合的にみる問題である。(1)アは、略地図に示されたA B間の実際の距離を求める問題であり、正答率は約8割であった。

誤答としては、換算を適切にできなかったと思われる「75m」や「7500m」というものが多かった。(5)の、参議院について述べた文として適切なものを選ぶ問題は、正答率が約4割で、「総選挙は6年ごとに行われ、全員一斉に改選される」という選択肢を選んだ誤答が多かった。(9)は、権力分立制がとられている理由を、与えられた三つの語(均衡・集中・抑制)を用いて説明する問題であり、正答率は約6割であった。誤答としては、「均衡に集中し抑制をはかるため」のように、三つの語を与えられた順につなげたものが多かった。国会・内閣・裁判所の役割や機能など、基礎的・基本的な内容を整理し、問われていることを正しく理解して適切に表現する力を高めることが大切である。

〔6〕は、基本的人権の中の社会権と参政権に関する基礎的・基本的な知識の定着や、選挙を棄権することについてのレポートを題材に、現代社会が抱える課題について思考・判断し、自分の考えを適切に表現する力をみる問題である。(3)イは、年代別の投票率のグラフを読み取る問題であり、正答率は約7割であった。「若い議員が少なくなっている」という誤答が見受けられた。グラフが、衆議院議員の年齢構成を表していると誤解したものと思われる。(3)ウは、多くの人が選挙を棄権すると、国民にはどのような影響があるかを書く問題である。正答率は約5割であり、「国の政治が安定しなくなる」、「生活しにくい社会になってしまう」というように、国民への影響が具体的に述べられていない誤答が多かった。読み取ったデータをもとに思考・判断し、適切に表現する力が大切である。

社会では、基礎的・基本的な知識を活用し、問われていることに対してその理由や背景を踏まえ、適切に表現する力や、複数の資料から目的に応じて必要な情報を引き出して活用する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 社会(前期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率(%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率(%)					
1	(1)	2	ロンドンから見たロサンゼルスの方位	82.5	4	(1)	2	地租改正	40.3			
	(2)	2	ロンドンとロサンゼルス最短コース	60.4		(2)	2	明治時代前期のできごと	52.2			
	(3)	2	ロンドンから最も遠い地点	57.9		(3)	3	領事裁判権	49.5			
	(4)	3	ロサンゼルス到着時間(時差)	40.8		(4)	2	立憲政友会	40.6			
	(5)	2	アフリカ大陸の気候	74.0		(5)	2	世界恐慌と日本の輸出	51.0			
	(6)	2	ブラジルとサウジアラビアの統計	42.6		(6)	2	日本の民主化と国連加盟	36.0			
										(7)	2	サンフランシスコ平和条約
2	ア	2	関東地方の都県の数	64.1	5	(1)	ア	2	距離の計算	75.9		
	イ	2	宮崎県の県名	64.8		イ	2	皇居周辺の景観写真	53.5			
	ウ	3	促成栽培	49.4		(2)	2	桜田門外の変と井伊直弼	63.9			
	ア	2	福岡県の統計	37.3		(3)	2	版籍奉還	54.2			
	(2)	イ	3	福岡空港と北九州空港の比較		68.6	(4)	2	天皇の国事行為	56.2		
	ウ	2	断面の判別	54.6		(5)	2	参議院について	39.6			
3	(1)	2	文化財の建てられた年代の古い順	80.5		(6)	2	環境省の仕事	86.4			
	ア	2	豊臣氏の滅亡	18.7		ア	2	刑事裁判と被告	90.6			
	イ	2	島原・天草一揆	72.2		(7)	イ	3	国民の司法参加によって期待されること	39.3		
	ア	3	東大寺・国分寺・国分尼寺を建てた理由	63.0		ウ	2	裁判員制度	63.7			
	(3)	イ	2	墨田永年私財法	83.4	(8)	2	マスメディア	80.5			
	(4)	2	飛鳥時代の様子	83.0	(9)	3	三権の抑制と均衡	55.0				
	ア	2	浄土信仰	93.6	6	(1)	2	ワイマール憲法	88.4			
	イ	2	摂関政治	85.7		ア	2	生存権	81.1			
						イ	2	日本の社会保障制度	46.6			
				ア		2	普通選挙	81.0				
				(3)		イ	2	年代別の投票率のグラフから見えてくる課題	73.5			
				ウ		3	選挙の棄権が国民に与える影響	50.0				

数 学（前期）

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)、(2)は全体的に正答率が高く、知識・技能は定着しているものと思われる。(1)ウは、 $(-2)^3$ の計算を間違えたと思われる誤答が見受けられた。(2)は、式の値についての問題である。正答率は約7割と高かったが、 a 、 b に値を代入せずに文字式の計算で終わってしまった誤答も見受けられた。(3)の正答率は約9割と高く、連立方程式についての知識は十分に定着しているものと思われる。(4)は、因数分解の問題であり、正答率は約7割と高かったが、二次方程式の解を求めた誤答が見受けられた。(5)は、変域についての問題である。正答率は約7割と高かったが、 x が最も小さい値のときの y の値を最小値とした誤答も見受けられた。(6)は、与えられた条件から四角形の面積を求める問題であり、正答率は約3割であった。(7)の、二等辺三角形の性質を問う問題は、正答率が約4割であり、無答が多かった。(8)は、学習指導要領の改訂に伴い、1学年で扱われることとなった「資料の活用」からの出題である。正答率は約7割で、中央値・平均値についての知識は定着しているものと思われる。

②は、見通しをもって思考・判断する力を問う問題である。(1)は、大小二つのサイコロの目の組み合わせを題材とした確率についての問題である。正答率は約6割であり、場合の数を数え間違えたと思われる誤答が多かった。(2)は、一冊の本のページ数を一次方程式を用いて求める問題であり、正答率は約3割であった。誤答は多岐にわたり、無答も多かった。与えられた条件を適切にとらえることができなかつたものと思われる。(3)は、正四角すい上にある二つの点の最短距離を求める問題であり、正答率は約1割と低かった。正四角すいを展開図としてとらえ、中点連結定理を利用して思考することができなかつたものと思われる。

③は、筋道を立てて思考・判断・表現する力や、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、3けたの正の整数から各位の数の和を引いた値が9の倍数になることを証明する問題である。(1)イ、エの正答率は約4割であった。筋道を立てて表現する力が十分ではないものと思われる。(2)アは、三角形の相似の証明についての問題であり、正答率は約4割であった。2組の角の大きさが等しいことを示すべきところを1組しか示していない誤答や、角の大きさが等しい理由を示していない誤答が目立った。円周角や対頂角の性質を利用し、筋道を立てて証明する力が大切である。(2)イは、円周角と弧の性質を用いて解く問題であり、正答率は約3割であった。誤答は多岐にわたり、無答も多かった。弧に対する中心角を見出せなかつたものと思われる。(2)ウは、三平方の定理と相似についての融合問題であるが、正答率は非常に低く、無答も多かった。

④は、関数 $y = ax^2$ のグラフをもとに座標や図形の面積について、数学的な見方や考え方を用いて処理する力をみる問題である。(1)は、正答率が約8割であった。 x の値を代入した後に計算を間違えたと思われる誤答が見受けられた。(2)は、 y 軸で分割される二つの三角形に着目して面積を求める問題で、正答率は約6割であった。(3)は、三平方の定理を用いて解く問題であり、正答率は5割を下回った。三平方の定理をうまく利用して、2点A、Bの座標から線分ABの長さを求めることができなかつたものと思われる。(4)は、正答率が約1割と低く、無答も多かった。与えられた点の x 座標と y 座標に着目して正方形の辺の長さを表し、方程式をつくることができなかつたものと思われる。また、因数分解の間違いや、二次方程式の解の公式を利用したときに計算を間違えたと思われる誤答が目立った。

⑤は、ストーブという身近なものを題材に、「運転を開始してからの時間と灯油の残量」の関係から読み

取った情報や、基礎的・基本的な知識を総合的に活用し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)ア㉞、㉟は、正答率が8割を上回った。式に値を代入した後に計算を間違えたと思われる誤答が見受けられた。(1)イは、ストーブの運転を開始してからの時間と灯油の残量の関係をグラフに表す問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、与えられた表からストーブの運転の設定を切り替えた時間を求める問題である。正答率は非常に低く、灯油の残量が0になるのは運転を開始してから10時間後であることを表から見出せなかったものと思われる。(3)は、正答率が非常に低く、無答も多かった。運転の設定が「弱」であるときの1時間あたりの灯油の消費量を求めることができなかったものと思われる。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけでなく、その意味をしっかりと理解した上で、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 数 学 (前期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	3	数式	正負の整数の計算 (加減)	97.9	3	数と式	式による説明	55.2	
			正負の整数の計算 (除法)	94.6				43.4	
			正負の整数の計算 (累乗)	82.7				57.8	
			多項式の計算	89.0				39.1	
			平方根の計算	84.3					
	(2)	4	式の値	72.8	2	図形	円の中の三角形の相似の証明	43.7	
	(3)	4	連立方程式	89.0			扇形の弧の長さ	26.0	
	(4)	4	因数分解	71.9			三平方の定理と三角形の相似	3.0	
	(5)	4	関数	関数 $y = ax^2$ の変域	69.6	4	関数	関数 $y = ax^2$ のグラフと座標	80.8
	(6)	4	数と式	平方根の計算	32.5			関数 $y = ax^2$ のグラフと図形	60.3
	(7)	4	図形	二等辺三角形の性質	42.7			三平方の定理	48.0
	(8)	4	資料の活用	度数分布・代表値と散らばり	68.4			関数と2次方程式	8.6
2	4	資料の活用	確率	56.6	5	関数	一次関数の表	86.9	
			数と式	一次方程式の利用			31.1	一次関数のグラフ	83.5
	(3)	4	図形	展開図と中点連結定理			10.8	イ	3
								9.9	

理 科（前期）

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、植物のつくりや殖え方の特徴からその分類を答える問題であり、正答率は約7割であった。(1)イの、身近な植物の中からシダ植物のなかまを選ぶ問題は正答率が約4割であった。(2)アは、核を顕微鏡で観察するとき用いる染色液の名称を問う問題である。正答率は8割を上回り、実験についての基礎的・基本的な知識は定着しているものと思われる。(2)イは、タマネギの根の先端を表す図を選び、その理由を書く問題であり、正答率は約7割であった。(3)は、地震波のP波とS波の伝わる速度とゆれの大きさについての問題である。正答率は8割を上回り、これらの内容についての知識は定着してしているものと思われる。(4)は、東日本の海溝付近におけるプレートの動きについての問題であり、正答率は約5割であった。

②は、物理・化学分野の小問集合である。(1)アは、電磁誘導のしくみについての問題であり、正答率は約7割であった。(1)イは、磁石が静止しているときに、検流計の針がふれない理由を書く問題である。正答率は約4割であり、誤答としては、「誘導電流が流れないから」のように、理由になっていないものが多かった。(2)アは、図に示された「押す力（作用）」に対する「受ける力（反作用）」をかき表す問題であり、正答率は約9割であった。(2)イは、互いに力を及ぼし合う物体の運動の向きを問う問題で、正答率は9割を上回った。力の作用と力による運動の変化については十分に理解できているものと思われる。(3)は、身近な物質の中から単体を選ぶ問題であり、正答率は約8割であった。単体や化合物に関する知識が定着しているものと思われる。

③は、顕微鏡を用いた観察についての問題である。(1)アは、誤った顕微鏡の操作を選び、その理由を書く問題であり、正答率は6～7割であった。顕微鏡の操作方法や操作上の注意点に関する基礎的・基本的な知識は概ね定着しているものと思われる。(1)イは、顕微鏡の視野が最も広くなるレンズの組み合わせを問う問題であり、正答率は約5割であった。(2)アは、赤血球に含まれる物質の名称（「ヘモグロビン」）を書き、魚類においてこの物質が酸素と結びつく場所を選ぶ問題である。「物質の名称」の正答率は約7割であった。また、「結びつく場所」の正答率は約5割であり、誤答としては「肺」を選んだものが多かった。

④は、中和に関わるイオンの性質やその変化を総合的に思考・判断して表現する力、水溶液に含まれるイオンの電気的性質についての理解をみる問題である。(1)アは、中和に関わるイオンの名称と、中和点での水溶液の性質を問う問題である。「水溶液の性質」の正答率が約9割と高かったのに対して、「イオンの名称」の正答率は約5割であり、基本的な用語の定着が十分ではなかったものと思われる。(1)イは、混合すると中性になる水溶液の組み合わせを選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。誤答としては、正解が二組あることに気付かず、一組だけを選んだものが多かった。(1)ウは、水溶液の中和のようすを思考・判断し、粒子のモデルで表現する力をみる問題であり、正答率は約2割であった。

⑤は、物体が及ぼす圧力や物体にはたらく水圧について、図やグラフを読み取り、その大きさや向きの関係を総合的に思考する問題である。(1)は、物体が面に及ぼす圧力を求める問題であり、正答率は約2割であった。グラフから必要な数値を読み取り、適切に処理する力が大切である。(2)アは、物体の上面と下面にはたらく水圧の大きさの関係を問う問題であり、正答率は約7割であった。(2)イは、物体にはたらく重力と浮力の大きさの関係を問う問題であり、正答率は約5割であった。(3)、(4)は、浮力の変化をグラフか

ら読み取り、物体の動きや高さを推測して求める問題である。正答率は(3)が約8割、(4)が約2割であり、図やグラフから情報を読み取ることはできているが、物体の動きと関連付けてうまく活用することはできなかったものと思われる。

〔6〕は、惑星や月に関する会話文から必要な情報を読み取って活用する力をみる問題である。(1)は、太陽と金星の直径を比較する問題であり、①の正答率は約3割であった。数値を適切に処理して判断する力が大切である。(2)は、火星が真夜中に南中するときの火星・太陽・地球の位置関係を問う問題であり、正答率は約4割であった。天体の位置関係と地球上での見え方について思考する力が大切である。(3)の、真夜中に見えない惑星を問う問題の正答率は約7割であった。(4)は、金星の形から、観察した時間と方角を選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。(5)は、月の満ち欠けについて問う問題であり、正答率は約3割であった。月の満ち欠けが約30日周期でおこるという知識をうまく活用できなかったものと思われる。

〔7〕は、溶解度と飽和水蒸気量のグラフの特徴やその量的関係について総合的に考察する力、数値を適切に処理する力をみる問題である。(1)は、異なる二つのグラフに共通する情報を読み取る問題であり、正答率は約7割であった。(2)は、溶媒の量を2倍にしたときの溶解度曲線を選ぶ問題で、正答率は約2割であった。溶媒を2倍にすると溶ける溶質も2倍になるという知識を、グラフの変化に置きかえて思考することができなかったものと思われる。(3)は、グラフから必要な数値を読み取り、溶液の質量パーセント濃度を求める問題である。正答率は約3割であり、質量パーセント濃度の定義をうまく活用できなかったものと思われる。(4)は、理科室の空気に含まれる水分の質量を求め、体積に換算する問題であり、正答率は2割を下回った。グラフや表から必要な情報を取り出して適切に処理する力が大切である。

理科では、観察・実験の内容や結果を読み取って考察する力、グラフや表から取り出した情報を目的に応じて活用する力、事象を多面的にとらえて科学的に思考・判断し、適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 理 科 (前期)

問題番号	配点	問題の内容		正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容		正答率 (%)			
1	(1) ア	3	シダ植物の特徴	植物の分類	4	(1)	ア	①	2	中和と塩	中和に関わるイオンの名称	52.4
	イ	2	(つくりと殖え方)	シダ植物の識別			②	2	中和反応と溶液の性質		87.8	
	ア	2	核の細胞分裂の様子	核の染色液の名称			イ	3	中性になる水溶液の組み合わせ		33.5	
	イ	3	根の細胞分裂の様子	根の細胞の特徴			ウ	3	中和反応における粒子の個数と種類の変化		20.7	
(3)	2	地震と地震波	地震波の伝わる速度とゆれの大きさ	81.4	(2)	ア	3	酸・アルカリの性質	アルカリ性の水溶液が示す電氣的性質	50.9		
(4)	2	プレートの動きと震源	海溝付近のプレートの動きと震源の分布	54.1	イ	2		身近な物質と水素イオンが示す電氣的性質	61.8			
2	(1) ア	3	電磁誘導	電磁誘導の基本	5	(1)	ア	3	水の圧力と浮力	圧力の計算	24.2	
	イ	3		磁界の変化と電磁誘導		イ	3	物体の上下面にはたらく水圧の大きさの関係		74.1		
	ア	2	作用・反作用	反作用の力の作因		3	物体にはたらく重力と浮力の大きさの関係	54.0				
	イ	2		作用・反作用の法則と物体の動き		3	物体の浮力の大きさとグラフ	76.1				
(3)	2	単体の物質	単体からなる物質	79.0	(4)	イ	3		グラフの読み取り	23.8		
(4)	2	マグネシウムの酸化のモデル	金属の酸化における粒子の表し方	56.4	6	(1)	①	3	惑星の大きさと見え方	天体の大きさの比較	34.3	
3	ア	番号	2	顕微鏡の各部の操作		71.4	②	2		身近な物体による天体の大きさ比較	51.1	
	理由	2	顕微鏡の正しい使い方	顕微鏡操作の注意点		59.0	(2)	3		火星の位置と見え方	38.4	
	イ	2		視野を広くするレンズの組合せ		46.9	(3)	2		真夜中に見えない惑星	69.6	
	ア	名称	3	メダカの血流と		赤血球中のヘモグロビンの役割	65.0	(4)		3	金星の満ち欠けと見える時間・方角	33.8
イ	番号	3	血流のはたらき	魚類と主な外呼吸の場所	45.2	(5)	2	月の満ち欠け	三日月から一週間後の月の形	29.7		
イ	3		血流の方向と血管の判別	57.5	7	(1)	3	溶解度と飽和水蒸気量と温度	含まれている物質の量と温度の関係	67.2		
						(2)	3	溶解度	溶媒を2倍にしたときの溶解度の変化	20.6		
						(3)	3	水溶液の濃度	質量パーセント濃度の定義と計算	33.0		
						(4)	3	湿度と水蒸気量	湿度と空気に含まれる水分の体積の計算	16.6		

英 語（前期）

①は、放送による問題である。(1)の、英語の説明や質問を聞いて適切な絵や文を選ぶ問題は正答率が7～9割であった。(2)ア、ウの、ホームステイしている生徒と友人のある日の出来事を聞いて答える問題、(3)アの、二人の生徒の対話を聞いて答える問題の正答率は7～8割であった。(2)イの、昼食の前後にしたことを正確に聞き取って答える問題、(3)ウの、対話の中の「They」や「us」が何を指すのかを判断し、話の流れをとらえる問題の正答率は、4～5割と①の中では比較的低かった。様々な情報を整理し、話の内容や要点を適切に聞き取る力が大切である。

②は、英作文の問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語句を並べかえる問題であり、アの正答率は約5割であった。「What do you want to sport join in?」のように、「what」を疑問形容詞としてとらえることができなかつたと思われる誤答が多かつた。イの正答率は約1割と低く、「because we don't like have ~.」のように、「like」を「～のような」という意味の前置詞ではなく、動詞として使つたと思われる誤答が多かつた。ウの正答率は約3割であり、「Soccer and basketball are we can play that the sports.」のように、関係代名詞「that」を含んだ文の構造をとらえることができなかつたと思われる誤答が多かつた。(2)は、与えられた資料の内容と合うように英語で適切に書く問題であり、正答率は約5割であった。(3)は、留学生から、「みんなでバスケットボールの練習をしよう」と誘われたときの応答文を15語以上の英語で書く問題である。表現が適切でなかつたり、同じ意味の英文を繰り返したために減点されたものは見受けられたが、無答は少なく、相手の意向を踏まえて自分の考えや気持ちを伝えようとする姿勢が感じられた。

③は、二人の生徒の対話を完成させる問題である。(1)は、対話の展開を正確に読み取つた上で適切な英文を書く力をみる問題であり、いずれも正答率が低かつた。アは、「Have you to do next Sunday?」のように、助動詞「do」を適切に使うことができなかつたと思われる誤答、イは、「You can see them in the culture hall.」という答えにつながる疑問文を「where」を用いて適切に表現できなかつたと思われる誤答、ウは、「How many」で始まる疑問文を適切に表現できなかつたと思われる誤答が多かつた。(2)は、対話の意味が通るように適切な英文を選ぶ問題であり、正答率は5～7割であった。

④は、英語の授業で行つた生徒のスピーチを題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合う日本語を選ぶ問題である。正答率は約6割であり、本文の内容を概ねとらえられているものと思われる。(2)1の英問英答の問題は正答率が約3割であり、答えとなる部分「I usually buy salt at supermarkets.」の主語や動詞を質問文に合わせて変えることができなかつたと思われる誤答が多かつた。(2)2の正答率は約4割であった。誤答としては、質問文の「What did people call vegetables with salt?」の意味をとらえられていないと思われる「Romans.」や「Romans did.」が多かつた。(3)1、2の、日本語を英文に直す問題は、いずれも正答率が1割を下回つた。「I listen your speech very surprise.」、「It's I didn't know many thing.」のように、日本語の語順のまま英語を書いている誤答が多かつた。語の配列や修飾関係などを思考・判断し、適切な英語を書く力が大切である。

⑤は、「生徒が、卒業生のスピーチを聞いたことをきっかけに、様々なことに興味をもち、勉強することの大切さを知る」という内容の長文についての問題である。(1)は、本文の内容と合うように英文を完成させる問題であり、ア、イの正答率は6割を上回つた。本文の前半の内容を概ねとらえられているものと思わ

れる。ウは、「毎週日曜日に公園でしていたこと」を読み取る問題である。本文中の「many kinds of spiders」という内容から、「many kinds of」を含む選択肢を選んだ誤答が多かった。エは、「クモの巣のような繊維で、誰が、何をしたいと思っているのか」を読み取る問題であり、正答率は約3割であった。内容を断片的にとらえていたり、大切な部分を正確に読み取れていない傾向が見受けられた。(2)は、本文の内容と合うように適切な英語を選び、要約文を完成させる問題である。アの、「look for (～をさがす)」という熟語を問う問題の正答率は比較的高かったが、イ、ウの、段落の大まかな内容を別な語を用いて言いかえる問題は誤答が多岐にわたり、アに比べて正答率が低かった。(3)、(4)は、下線部が表している内容を日本語で書く問題である。(3)は、下線部の前の「They」や「do」が何を指しているのかをとらえることができず、本文から一部分を抜き出して日本語に直したと思われる誤答が多かった。(4)は、「what William told us to do」の「tell～to…」の文の構造をとらえることができなかつたと思われる誤答が多く、正答率は2割を下回った。

英語では、英文の大まかな流れをつかみながら大切な部分を正確に理解する力や、文の構造を理解した上で状況に合わせて適切に書く力を育成することが望まれる。

問題正答率 英語 (前期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	ア 3 イ 3 ウ 3	英文と質問を聞いて、適切なものを選ぶ。	96.1	4	ア 3 イ 3 ウ 3	本文の内容と合った日本語を選ぶ。	63.2		
			79.1				1 3	25.5	
			71.7				2 3	43.2	
	ア 3 イ 3 ウ 3	英文を聞いた後で、その内容についての質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。	87.0		3 3	3 3	本文の内容についての質問に英文で答える。	50.9	
			46.5					1 3	9.3
			81.1					2 3	6.0
	ア 3 イ 3 ウ 3	対話を聞いた後で、その内容についての質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。	77.3		ア 3 イ 3 ウ 3	ア 3	本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	63.3	
			61.0					イ 3	65.0
			40.0					ウ 3	47.8
2	ア 2 イ 2 ウ 2	英文の意味が通るように、語句を並べかえる。	48.4	5	エ 3	本文の内容と合うように、適切な英語を選んで、英文の要約を完成させる。	32.1		
			11.3				ア 3	58.2	
			33.8					イ 3	44.2
	資料に書かれてあることを参考にして、適切な英語を書く。	51.0	ウ 3		43.2				
		15語以上の英語で、自分の考えを書く。	28.2		3	下線部の内容を日本語で具体的に書く。	35.0		
			3				17.9		
3									
	3	ア 3 イ 3 ウ 3		対話を読み、空所に入る適切な表現を英文で書く。	16.2	リーディング	ア 3	下線部の内容を日本語で具体的に書く。	17.9
			27.0		イ 3				
30.1			ウ 3						
A 2 B 2		対話を読み、空所に入る適切な英文を選ぶ。	48.7	3	3		下線部の内容を日本語で具体的に書く。	35.0	
			72.3					3	17.9